

令和7年第7回総務産業常任委員会 要点記録

開閉会日時	令和7年8月26日（火曜日）			開会	10:00	会議場所		別海町議会 委員会室2・3		
				閉会	14:21					
委員の出欠	1 番	市川 聖母	出席	3 番	高橋眞結美	出席	6 番	宮越 正人	出席	
	9 番	小椋 哲也	出席	11 番	今西 和雄	出席	12 番	松原 政勝	出席	
	14 番	佐藤 初雄	出席	15 番	戸田 憲悦	欠席				
出席説明員	総務部	総務部長		総務部次長兼西春別支所長		総務部次長兼税務課長		総務部次長兼総務防災・基地対策課長		
		伊藤 輝幸	出席	竹中 利哉	欠席	松田 勝広	欠席	岩口 裕昭	出席	
		情報広報課長		尾岱沼支所長		総務防災・基地対策課防災監		総務防災・基地対策課主幹		
		山田 哲哉	欠席	門間 勝司	欠席	三瓶 秀憲	出席	佐藤 亮	欠席	
		総務防災・基地対策課主幹		総務防災・基地対策課主幹		情報広報課主幹		税務課主幹		
		橋本 達也	出席	深川 淳一	欠席	伊藤 武史	欠席	武田 妙子	欠席	
		税務課主査		西春別支所主査						
	佐藤 雄	欠席	川尻 俊佑	欠席						
	産業振興部	産業振興部長		産業振興部次長		農政課長		商工観光課長		
		小野 武史	出席	大坂 恒夫	出席	皆川 学	出席	掘込 美穂	欠席	
		水産みどり課主幹		水産みどり課技術主幹		商工観光課主幹		農政課主査		
		寺澤 淳司	欠席	古里 達也	欠席	上杉 大洋	欠席	金澤 亮太	欠席	
		農政課主査		農政課主査		商工観光課主査				
	佐々木正博	出席	西郷 博之	出席	山下 真弘	欠席				
	委員外の出席	議長					合計	0名		
事務局職員	局長	入倉 伸顕				合計	1名			
傍聴者数	議員	0名	報道関係者	0名		合計	0名			

会議に付した事件及び会議結果など		
発言者	会議経過 ※所管毎に議事を行う事情等により議事番号が前後することがある。	
委員長 11 番	今西	10:00 開会、出席委員 7 名、欠席委員 1 名、委員外 0 名、会期 1 日。
委員長 11 番	今西	産業振興部所管事務調査 議事 1 所管事務調査について (1) 別海町酪農工場及び別海町酪農研修牧場について ・別海町酪農工場（現地） 10:00 から 10:30 ・別海町酪農研修牧場（現地） 11:00 から 11:45
委員長 11 番	今西	・11:45 総務部所管事務調査（現地）終了、休憩。
委員長 11 番	今西	・13:26 再開。
委員長 11 番	今西	産業振興部所管事務調査 議事 1 所管事務調査について (1) 別海町酪農工場及び別海町酪農研修牧場について
農政課主査	佐々木	・酪農工場整備事業について、本施設は、別海町産の生乳を原料に牛乳乳製品等の地場産物の開発・製造販売を行い、地域産業の振興と町民生活の向上に資することを目的としている。町と農協が出資し、株式会社べつかい乳業興社が指定管理により管理運営している。 平成 13 年度の建設から年数が経過したため製造設備機器等の老朽化が進んでいる。指定管理者と協議し、中長期的な機器類改修計画を作成し、優先順位をつけて年度ごとに平準化を行っている。今年度は製造設備機器の更新として、貫流ポイラー更新工事、インクジェットプリンター購入、アイスクリームフリーザー更新、農漁村加工体験施設の燻煙機更新を行い、施設本体の工事として、排水処理施設改修工事を行う。
農政課主査	西郷	・別海町酪農研修牧場の概要について、平成 8 年に新規参入者や酪農後継者が知識・技術・経営感覚を習得する場として設置された。平成 9 年度から研修生の受入れを行い、現在まで 87 組が修了し新規就農している。 現在は 1 年目の研修生のみで 4 組 8 名がいる。 令和 3 年度に「別海町酪農研修牧場に係る持続的研修機能の強化について」を策定し、①財務健全化 ②労務管理の適正化 ③研修機能の強化 ④生産技術の高度化の 4 点の重点再建項目を策定した。 令和 5 年 11 月に第 2 実践牧場の稼働が終了。令和 4 年度から令和 6 年度までの赤字見込み分について、経営安定対策事業により、借入金の元金償還が解消された。規模縮小により人員削減を行ったが、指導員の確保が課題となっている。
委員長 11 番	今西	質疑
委員 9 番	小椋	・別海町として認識している課題、例えばもっとこういう施設になったらいいとか、このような効果を発揮したらいいという課題について伺う。
農政課長	皆川	・酪農工場の果たす役割は大きく 2 点ある。1 点目は設立当初からの目的である福祉牛乳の提供である。町内で絞られた牛乳を町民が飲めないという声があったことから始まった。 2 点目は別海町ブランドの普及である。工場の規模が小さいため、全国への浸透は難しいが、パン製

		造に別海町の牛乳が使われているといった原料供給という形で、もう少し別海町ブランドの普及ができればと考えている。
委員 9 番 農政課長	小椋 皆川	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けて、指定管理の受託者とのようなやりとりや工夫があるか。 ・指定管理者と月 1 回程度の話合いを持っているが、具体的な話まではできていない状況である。新製品開発も望まれているが、設備投資が必要になる場合もあるため、それを回収できるかという課題がある。
委員 9 番 農政課長	小椋 皆川	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税との連携や戦略についてはどうか。 ・ふるさと納税の返礼品は非常にアピールできる部分が多い。当工場の原料を使った返礼品もあるため、これをもっと活用できれば別海町ブランドをより一層 PR できると考えている。
委員 9 番 農政課長	小椋 皆川	<ul style="list-style-type: none"> ・経営的な部分をもっといい状態に持っていくための工夫や行政としての関わり方について伺う。 ・収支均衡が最も望ましい状況である。福祉牛乳の提供という大きな役割があるため、収支均衡がとれなくても続けていかなければならない事業と考えている。町として資金補助は必要だが、会社としても収支均衡を図るよう経営していただきたいと考えている。
産業振興部長	小野	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の売上げは 6 億円弱程度で、これを伸ばすのは現状では難しい。原材料費・資材費や人件費の高騰もあり、経営的に厳しい状況にある。別海ブランドの発信、福祉牛乳の普及を長年やってきた経緯もあり、これを継続するためには町からの支援が今後必要になる可能性があると考えている。
委員 12 番 農政課長	松原 皆川	<ul style="list-style-type: none"> ・施設本体の排水処理について、下水道は通っているか。 ・下水道で排水処理を行っていたが、老朽化により排水基準が満たせなくなるため、今回排水処理施設の改修工事を行っている。
委員 12 番 農政課長	松原 皆川	<ul style="list-style-type: none"> ・工事費は町で負担するのか。 ・施設本体の部分になるため、町の施設として町が行うことになっている。
委員 12 番 農政課主査	松原 佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・1 日の処理排水量はどのくらいか。 ・現在の排水処理量は 1 日 48 立米で、更新後は 100 トンの処理能力になる。
委員長 11 番 農政課長	今西 皆川	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年大きな額の機器類の補修等を行っているが、今後、別海町ふるさと応援基金がなくなったときの原資の確保方法について伺う。 ・現在は、別海町ふるさと応援基金で対応しているが、この施設を止める判断にならない限り、続けていかなければならない事業である。町全体の財政の中でどれくらいこの工事に充てることができるかは、全体的な議論の中で決まってくると考えている。
委員長 11 番 農政課長	今西 皆川	<ul style="list-style-type: none"> ・施設改修計画は今後どのような形で株式会社べつかい乳業興社とやり取りしていくか。 ・施設の老朽化が進み、全面的な新築となった場合は相当な費用がかかる。その時に福祉牛乳を続けていくのかという課題と、出資している農協との話合いが必要である。酪農工場が必要かどうかは町民の意見も含めて協議していかなければならず、その時期が来れば改めて考えていきたい。
委員 9 番 農政課長	小椋 皆川	<ul style="list-style-type: none"> ・別海町酪農研修牧場について、農業人フェアなどで新規就農希望者を探しに行っても、酪農の希望者が非常に少ない厳しい状況である。今後研修希望者を増やす、掘り起こす、就農しやすい新しい形態を見つける等の考えや展望について伺う。 ・厳しい状況だが、何とかして新規就農者を確保していきたい。新規就農者がまず酪農に興味を持っていただかないといけないため、酪農そのものが発展するような施策が必要である。そのうえで新規就農者向けの支援を検討し、別海町酪農研修牧場という座学等ができるとてもいい施設が揃っているため、その辺をアピールしながら新規就農者を確保していきたい。
委員 9 番 農政課長	小椋 皆川	<ul style="list-style-type: none"> ・空き施設の利活用について、指定管理者側との調整や相談について伺う。 ・単身施設について、現在、総合政策課で地域おこし協力隊が増えているため、その辺に活用できない

		かということで調整中である。利活用していただける見込みは少しあると考えている。
委員 9 番	小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・研修生の住宅にエアコンが設置されていないが、設備の充実について計画はあるか。 ・来年度以降エアコンの設置については考えていきたい。
農政課長	皆川	
委員 6 番	宮越	<ul style="list-style-type: none"> ・農協と温度差があるのではないか。将来はうちの町にとって絶対必要だという思いについて、部長の立場からお聞かせいただきたい。
産業振興部長	小野	<ul style="list-style-type: none"> ・町だけでなく農協と町並びに関係機関が一体となってやらなければ、担い手不足は解消できない。令和 3 年に研修牧場の今後の方向性を定める際、農協にも入っていただいた運営会議で議論し、現在の提案書が出来上がっている。これからもしっかりと連携していかなければ別海町の酪農の未来はないと認識している。
委員長 11 番	今西	<ul style="list-style-type: none"> ・当時の産業建設常任委員会でも議論した経過がある。経営状況の悪化を防ぐために第 2 実践牧場を手放したが、つなぎ飼い牛舎が酪農のスタートという考え方も町として持っていたと理解している。今後の 30 年に向けて、出資している農協とも今まで以上の形で関わりを持つという考え方も必要かと思うが、その辺について伺う。
産業振興部長	小野	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 実践牧場だけにしたのは、就農後のつなぎ飼い牛舎が多いということもある。研修生を確保することや指導員の高齢化等、色々なものを複合的に考えた中で現在のスタイルがある。今後、町がどういった立ち位置で別海町酪農研修牧場を運営していくのが重要になってくるため、農協と膝を突き合わせて深い議論をしていかなければならない。進捗があれば委員会等を通じて報告したい。
委員 1 番	市川	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員が少ない状況で、今後どうやって成り手と担い手不足を解消していくか。何か秘策や考えがあれば伺う。
農政課長	皆川	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に難しい課題である。町だけでなく農協も誰かいないかということで探してくれているが、若い人を指導員にすると成り手が無い。若すぎると技術力もないため、どうやって確保していくのが最も大きな課題になっている。
委員 12 番	松原	<ul style="list-style-type: none"> ・1 年間を通して研修生を募集するのに、どういう形で町と農協がやっているか。
農政課長	皆川	<ul style="list-style-type: none"> ・年に 10 回程度農業人フェアに担い手支援協議会として農協も一緒に参加している。去年は 50 人から 60 人程度、今年度は 100 人を超える方と面談をして、新規就農を呼びかけている。去年は移住相談の中で別海町で就農したいという方が 1 名、別海町酪農研修牧場に入所された実績がある。
委員 12 番	松原	<ul style="list-style-type: none"> ・中春別農協も研修牧場があるが、農協独自でやっているのか。
農政課長	皆川	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手支援協議会に中春別農協も入っているが、独自でフェアに出ることもあり、別々で一緒にのフェアに出るといった形で独自に活動されている部分もある。
産業振興部長	小野	<ul style="list-style-type: none"> ・フェアは酪農以外のいろんな農業の方々が集まって行われる。酪農だけでも北海道全体で何十ブースもある中で、別海町にどれだけ来ていただけるかということになる。100 組と面談したとしても、本当に 1 組来るかどうかという状況である。これからは別海町が差別化を図っていくことが大事で、入口から出口までしっかりと農協がサポートできる体制を構築している強みを出していきたい。
委員 6 番	宮越	<ul style="list-style-type: none"> ・別海町の研修施設の開設は道内でも早かったと思う。別海町よりも研修生が入っている施設があるとすれば、何が違うのか。
農政課長	皆川	<ul style="list-style-type: none"> ・別海町の研修施設よりも多くの方が研修している施設は多分ないと思う。入口から出口までしっかりしているため、やりたいという方が来やすいのは当町が最もよいのではないかと考えている。
産業振興部長	小野	<ul style="list-style-type: none"> ・酪農での就農者数で考えると、別海町は全道でトップ、全国でもトップクラスの就農戸数が入っている。元々の就農戸数総体が大きいので充足できていないイメージがあるかもしれないが、実は非常に多くの方が就農している実績があり、これは別海町酪農研修牧場等の施設のおかげと考えている。
委員 6 番	宮越	<ul style="list-style-type: none"> ・経営がペイするかしらないかも大事だが、多少のリスクを負ってでもこれを守っていくという考え方が町にあ

産業振興部長	小野	<p>るか、また、町と農協の意識レベルはどうか。</p> <p>・前段に皆川課長から酪農工場が果たす役割について説明したが、年数がたちそれなりの会社になっていくと、赤字が続くとどうしてなんだという話が出てくる。株主総会等の議論では、町と農協の間でそういった話が出ることもある。お互い本来の施設の在り方はこういうものだという説明をして理解を得ながら、共に同じ考えのもとでいくしかないと考えている。</p>
委員長 11 番	今西	・14:05 産業振興部所管事務調査終了、休憩。
委員長 11 番	今西	・14:11 再開。
委員長 11 番	今西	<p>総務部報告事項</p> <p>議事 2 その他報告事項</p> <p>(1) 令和 7 年 7 月 30 日発生カムチャッカ半島地震による津波注意報・警報への対応について</p>
総務部長	伊藤	<p>・令和 7 年 7 月 30 日に発生したカムチャッカ半島付近を震源とする地震による津波警報発表に伴う対応について報告する。なお、本町で津波警報が発令されたのは、平成 23 年の東日本大震災以来 2 度目である。</p>
総務防災・基地対策課 主幹	橋本	<p>・令和 7 年 7 月 30 日午前 8 時 25 分頃にカムチャッカ半島付近で地震が発生し、午前 8 時 37 分に津波注意報が発令された。</p> <p>この時点で第 2 非常配備体制とし、防災行政無線や町公式 LINE による住民への注意喚起を行い、海岸地区における避難所を一部開設した。午前 9 時 40 分に津波警報が発令されたことに伴い、第 3 非常配備体制に移行し、海岸地区に対し避難指示を発令した。</p> <p>第 3 非常配備体制の状況の中、全部で 4 回の災害対策本部会議を開催し、各部等における対応状況の共有や今後の対応について協議を行った。</p> <p>7 月 30 日午後 8 時 45 分に津波注意報に切り替わったことから避難指示を解除し、翌 7 月 31 日午後 4 時 30 分に津波注意報が解除されるまで避難所は開設していた。避難者総数は合計で 289 名となり、避難指示発令対象者人数に対する割合で約 13%となった。</p>
委員長 11 番	今西	・1 度目の警報発令のときの課題もクリアしながら今回迎えたと思うが、今回、新たに見えてきた課題があれば報告を求める。
総務部長	伊藤	<p>・体験した中での感想として、遠いところから来る津波で非常に時間がかかるというのが第 1 印象であった。注意報が発令されて解除されるまで 1 日以上の日数がかかり、その間非常配備体制をとったが、職員が職場に張り付かなければいけない状況で、これが 3 日目、4 日目となったときに乗り切れるだろうかと危惧した。</p> <p>避難指示をお願いしたが、通行止めになっている道路を走られた方もいるなど、歯止めのきかない人の行動が発生することがわかった。これをどのように防いでいくのか、長引く避難となったときにどのように避難生活を送っていただけるのか、色々と難しいものも見えてきたのが事実である。</p>
委員長 11 番	今西	<p>・委員会としては、今後、委員会協議会の中でもこの件について協議し、防災関係の調査事項に再度加えることを視野に入れながら検討していきたい。</p> <p>また、先日議会主催の防災講習会では、担当の職員にも出席いただき一緒に講習を受けたことに感謝する。</p>
委員長 11 番	今西	・14:21 閉会